

活動番号

1

ここでまた、再び。 ～東京で繋がる南越前町～

清水 萌音、高橋 啓夏、石田 優汰

■活動内容

【同郷会実行委員会の発足】

同郷会の円滑な運営と継続的な実施体制を築くため、関東圏在住の出身者、福井県東京事務所、および大学（ゼミ）が連携した「同郷会実行委員会」を発足させた。委員は、関東圏在住の南越前町出身者3名、福井県東京事務所職員1名、奥山ゼミナール学生6名、教授1名の計11名で構成した。

【南越前町同郷会の企画・運営・開催】

東京都港区「ふくい南青山291」を会場に、「第3回南越前町同郷会～ここでまた、再び～」を開催。当日は町長をはじめ、関東圏在住の出身者や関係者20名が集い、対面での交流を通じて郷土への想いを共有する機会を創出した。

【SNSの活用と関係機関との連携による周知活動】

幅広い世代への情報到達を目指し、従来の「公式LINE」の継承に加え、新たに「公式Instagram」を開設・運用した。あわせて、福井県人会や道の駅等の既存ネットワークとも連携し、オンライン・オフライン両面から多角的にイベントを周知した。

■町との関わり

【町内フィールドワーク】

本年度は南越前町を2回（6月27～28日、11月29～30日）訪問し、地元企業や地域住民に対するヒアリングを通し、プロジェクトの協力依頼や情報収集を行った。今庄つるし柿フェスタ（11月30日）では、同郷会の周知も兼ねてイベントに参加し、地域コミュニティとの交流および参加促進を図った。

【訪問場所】・南越前町役場・道の駅南えちぜん山海里 ・花はす公園・花はす温泉 そまやま・今庄駅・忠兵衛そば・北前船主の館右近家 ・株式会社杉休・Daisan・リトリートたくら・昭和会館・sou's coffee roastery・古民家レストランらんたん

【町特産品の提供】

「ふくい南青山291」の施設責任者へ福井県商業・市場開拓課と町との連携により特産品の提供を行うことができた。

- ・日本酒 雪きさら、鳴り瓢
- ・今庄つるし柿のチーズカナッペ
- ・藤梅を使ったおにぎり

■情報発信・共有

[デジタルツールの活用]

公式LINE：昨年度の参加者も登録している「公式LINE」を運用。5月から定期的に9回の情報発信を行い、継続的な関心の維持に努めた。

Instagram：ゼミ公式アカウントに加え、南越前町に特化した外部アカウントを活用し、イベントの告知を実施した。

[対面での周知活動]

福井県のアンテナショップ「ふくい南青山291」で開催(10月1日)された東京福井県人会「イエロー会」に参加。

[チラシ配布・掲示]

道の駅等への設置：町内の道の駅などの公共スペースにチラシを設置・掲示。

イベントでの配布：「つるし柿フェスタ」の会場において、チラシの配布および対面での説明を実施した。明治大学で実施された(11月15日)福井県連携講座「葛屋重三郎の仕事と和紙の世界」において、参加者にチラシを配布した。

■成果(変化)

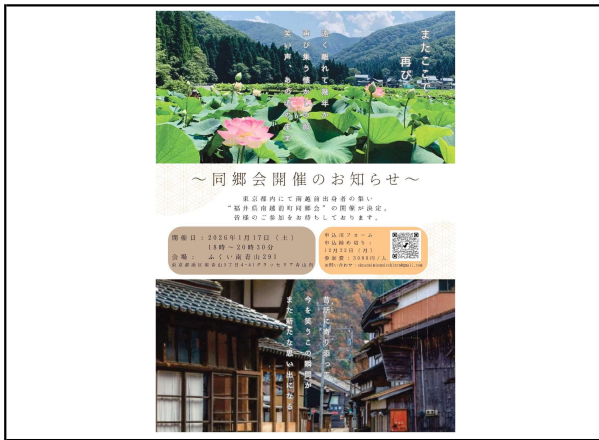
【同郷会の成果と波及効果】本年度は、昨年度再開したコミュニティをさらに発展させるべく、SNS活用と対面イベントを組み合わせた運営に取り組んだ。公式LINEの運用を引き継ぎ、情報発信の基盤を整備するとともに、実行委員会を発足させ、次年度以降も「出身者・行政・学生」が協働してコミュニティを支える持続的な運営体制を確立した。集客面では、昨年度(12名)から10名増の計22名を目標として掲げていたが、応募者数は18名(実参加17名)に留まり、全体数としての目標達成には至らなかった。しかしながら、新規応募者が9名に達するなど、新たな参加層を拡大できたのは大きな成果といえる。さらに、参加者の中には定年退職を機にUターンを予定している人もおり、今後は関東圏の同郷者ネットワークと南越前町の地域側とが相互に行き来する「立体的な交流」へと発展していくことが期待される。

【参加者の反応】「料理が美味しく、学生の活動報告を通じて故郷の新たな魅力に気づくことができた」「同郷同士、地元の話で盛り上がっていて非常に有意義だった」といった肯定的な声を多くいただいた。一方で、「より多くの人が集まるような告知の工夫」や「日中開催の検討」などの具体的な要望も寄せられた。

【活動を通じた自身の変化】約1年間の活動を通じて、南越前町の人々が町に寄せる強い想いに触れる機会が多くあった。人口減少や過疎化といった課題は存在する一方で、住民同士のつながりが強く、地域全体の心理的な密度が高い町であると感じた。都市部で生まれ育った私たちにとって、地域は居住地としての側面が強く、土地そのものに特別な思いを抱くことは多くなかった。しかし、活動を通じてお話を伺った町の方々が、「南越前町をつないでいきたい」「盛り上げていきたい」という思いを共有していることを知り、都市部出身者との意識の違いを実感した。同郷会は、こうした地域内の思いを外へと運び、共有する貴重な場として機能している。プロジェクトの任期は終了するが、今後は一人の支援者として、この同郷会というコミュニティがさらに発展し、次世代へと受け継がれていくよう、その波及に継続して貢献していきたいと考えている。

■活動に関する写真等

▼同郷会ポスター



▼道の駅でのポスター設置

